AA14F

講義録第５冊目発刊おめでとう

１０有余年という長い歳月を通して、毎月第３日曜日に５時間一堂に会し英語の学習をした――そして、その講義録はついに５冊目を数えた。

この５冊目までを勘定に入れると、全体のボリュームはなんと８８０ページにも及ぶのである。しかも、第１冊だけはタイプ印刷だが、あとはすべて手書きである。

手書きの文字は流麗でてらいがなく、書かれたひとの人柄そのものがにじみでている。いうまでもなく、われらの大御所徳永大人の手跡である。

地球の歴史からみれば、５時間×１２カ月×１２年＝７２０時間はほんの僅かな点にすぎない。しかし、句読点を１４４回打ち続けたという事実はいったい何であったろう。いま、５冊目の講義録を目の前にして、その重みにただただ驚くばかりである。

記録があるとないとでは、実に大きな相違がある。ＯＳＴＥＣは記録を残した。その意味で、この会の存在は他を圧している。畏るべき誇るべき人間たちの集まりであるといえるだろう。

ＯＳＴＥＣがいつまで命脈を維持していくか、それはだれにもわからない。だが、この大部の記録が証明する力強さは悲観的な見通しを全然許さないようである。講師であるわたしも、無責任ではいられない。

リビドーをいつまでも失わない徳永大人、それに徳永大人を常に陰から勇気づけられてきた会員諸氏、ほんとうにありがとう。

平成元年弥生彼岸の入り　東京にて

水上　龍郎